

努力賞

おこりじぞう

第三峡田小学校 四年 古谷 小雪

やなぎだ先生、私の家では、八月六日が来ると、お父さんが原子ばく弾「ピカドン」が広島・長崎に落とされたくさんの命をうばったことを話してくれます。私も「ピカドン」の事を調べようとこの本を選びました。

広島で、町の人に幸せを伝えていた「わらいじぞう」がピカドンによって、仁王様のような「おこりじぞう」になってしまいました。やなぎだ先生、なぜ「おこりじぞう」になってしまったかわかりますか。

それは「ピカドン」によって体中が焼けただれた女の子の「かあちゃん、水がのみたいよ」との願いをうけて、目にいっぱい涙を女の子の口に流し込んだからです。

ピカドンへの怒りと女の子への慈しみがおじぞうさんの顔を変えたのだと思います。

やなぎだ先生、「ピカドン」とは、いったい何だったのでしょうか。広島で、そして長崎の街をいっしゅんにして破壊してしまい多くの人々の命を奪い今でも原爆症で苦しんでいる人がたくさんいるそうです。私がおじぞうさんでも、きっと「おこりじぞう」になってしまうと思います。

どうしてこんな恐ろしい「ピカドン」が私たちの国に落とされたのでしょうか。

「戦争だから仕方がない」という人がいるかもしれませんが、私達の夢やきぼう、命までも奪う事が誰に許されるのでしょうか。

お父さんは「ピカドン」は、遠い昔のことでは無く、今でも世界が何度でも破壊されるくらいの「ピカドン」

をいろいろな国がもっていると話してくれます。

私にはむずかしく良くわからないことがあります。でも、「わらいじぞう」が「おこりじぞう」になるようなことを二度とおこらないように平和な社会にしていく努力だけはつづけ、いつかきつと、平和の事を教えてくれたおこりじぞうにあいたいなと思います。